

ご質問等への回答

1 ワークショップの進め方について

- 市のこれまでの住民参加のやり方を見ていると、今回のワークショップの意見が本当に反映されるのか疑問に思う。しっかり意見を反映してほしい。
- このような住民意見を聞く場が開催されるのは良いことだと思うので、ここでの意見を踏まえて、市が責任を持ってまとめてほしい。

【ワークショップ結果のとりまとめについて】

グループ討議の結果は成果として各回でとりまとめを行い、次回のワークショップで参加者の皆様に「ワークショップの結果概要」をお配りし、内容をご確認いただきます。市は各回の記録をもとに、「地域別実行計画」と「リーディングプロジェクト」の案を作成し、案についても皆様にご議論いただくこととしています。

最終的にワークショップでまとめ上げた成果は、複数案の評価結果の比較表として整理します。この比較表の内容は、市が「地域別実行計画」と「リーディングプロジェクト」を策定する際に十分に活用させていただきます。

- ワークショップで議論する内容の幅が広いので、どこに焦点をあててどこまで深く話をすればよいのかわからない。議論のテーマを絞り、最終成果のイメージももっと明確に示してほしい。
- 大沢野地域は範囲が広く、居住エリアによって施設の充実度やアクセスの利便性に差があるのに加え、検討対象施設が多いので意見がまとまるのか疑問だ。
- 議論が散乱して内容がつまらないため、どこまで発言してよいか不明。何をどうしたいか、1からではなく、ある程度の方向を示してほしい。
(ふりかえりシートより)
- 基本方針(案)が示されているので、それについての進め方がよいのでは？
(ふりかえりシートより)
- 話し合うテーマがはっきりしている方がよいと思う。(ふりかえりシートより)
- 話題が広すぎて話がまとまりにくいように思う。(ふりかえりシートより)
- 次回話し合うテーマを教えてください。(ふりかえりシートより)
- 最終目標、目的があいまいなところがあり、意見出しが難しかった。(ふりかえりシートより)
- 進行役がいてくれたので、様々な意見出しはできたと思うが、そもそもの目標設定があいまいであったこと、扱う施設が多くその用途も多岐にわたるので方向性が分かりにくかった。若年層の参加者が少ない。(ふりかえりシートより)

【ワークショップでの検討内容について】

前回のワークショップでお示ししたとおり、このワークショップでは4つの段階を踏んで議論を進めていきます(資料4 進め方とスケジュール)。

各回、議論する内容を2から3点に絞ってご議論いただき、最終的には「地域別実行計画」と「リーディングプロジェクト」の複数案の絞込みをして、評価の結果を比較表としてとりまとめます。

- ワークショップに参加しているメンバーは限られているので、もっと広く、今後施設を使うことになる若い世代、子育て世代の意見なども聞く必要があると思う。そのためには、オープンハウスを行政サービスセンターではなく人が集まる場所で開催した方がよい。
- オープンハウスとしての利用者の多いウィンディ等が良いと思います。
(ふりかえりシートより)
- 公共施設の職員や利用者がどんなことで困っているのか知る必要があると思うので、ワークショップに参加しているメンバーで現地調査ができる
とよい。

【コミュニケーションについて】

「地域別実行計画」と「リーディングプロジェクト」の計画策定に向けて、ワークショップをはじめとしたコミュニケーションを図り、地域の皆様からさまざまなご意見をいただき、計画に反映されていきます。

オープンハウスでは、ワークショップでご議論いただいた内容をパネルにまとめて解説、展示して、地域の皆様からご意見をいただきます。開催場所については具体的に決まっていますが、多くの方が訪れる場所で開催したいと考えています。

また、富山市では現在、ワークショップメンバーでの現地調査等を行う予定はありませんが、公共施設に関する情報について必要な点がありましたら、可能な限り調査をし、情報提供したいと考えておりますので、ご連絡ください。

- 様々な資料は事前配付、予習が良い。(ふりかえりシートより)
- 本日だけで資料読み込みは未消化あり。(ふりかえりシートより)
- 基本的に良かったが、グループをシャッフルすることも検討してほしい。
(ふりかえりシートより)
- 今後、若い人の意見も聞きたいと思います。(ふりかえりシートより)
- 子育て世代の人数を増やしてそこからの意見を取り入れてほしい。(ふりかえりシートより)
- 3時間は長いのでは？フォローをしっかりとしてほしい。(ふりかえりシートより)
- 全体的に時間の配分が長い。平日開催はできないのか？(ふりかえりシートより)

【その他、ワークショップについて】

資料については、今回以後、事前に送付させていただきます。当日は各自ご持参いただきますよう、お願いいたします。

ワークショップでは、各回の議論の積み上げで成果をとりまとめます。また、各回最後の発表やニュースレター、次回の資料等で他のグループで出た意見を確認することもできますので、グループは原則として固定し、グループ内での議論を深めていただきたいと思います。

このような理由から、ワークショップのメンバーの変更や、追加募集については実施しない予定としております。その代わりに、オープンハウスやニュースレターを活用して、さまざまな方法で参加者以外からのご意見を募集していきます。

議論の時間についてですが、ワークショップで皆様に資料の内容をご理解いただき、また、十分にご議論いただくため、3時間としています。長時間になりますが、ご協力よろしくお願ひいたします。スケジュールのご都合がつかない場合は、途中参加、途中退席いただいても問題ありませんので、事務局までご相談ください。

- 市の中心部ばかりに投資をしていて、周辺地域が置き去りにされている気がする。市街地周辺地域の住民の生活をもっと考えてほしい。
- コンパクトシティや行政再編をしてもいいが、すべてを中央の考えでやるのではなく、その地域の特徴を活かした形にしなければよさは失われるので、そこを踏まえて物事を進めていってほしい。(ふりかえりシートより)
- 予算の縮小を前提にされるとお金がかかる提案はできないなと思ってしまい、前向きな議論がしづらい。
- コンパクトシティという考え方のもと、市の中心部に力を入れてまちづくりを進めていることは理解しているが、大沢野地域でも改善すべき課題があるので、地域にとって必要な事業については予算を確保してほしい。

【コンパクトシティについて】

本市では、今日の人口減少・超高齢社会を見据え、市街地の拡大と低密度化による割高な行政コストの増大、過度な自動車依存による公共交通の衰退といった課題に対応するため、早い段階から「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を進めてきました。

コンパクトなまちづくりの実現に向けては、「公共交通の活性化」、「公共交通沿線地区への居住推進」、「中心市街地の活性化」を施策の3本柱として取り組んできております。

中心市街地は都市の顔であり、都市のイメージを印象付ける重要な拠点であり、経済活動の中心でもあるため、その機能を維持していくことが必要です。

一方、公共交通沿線地区においては、居住の誘導や公共交通の活性化により、日常生活に必要なサービスを享受できる環境を維持することが重要であると考えております。

それに向けて、富山市立地適正化計画に基づき、日常生活に必要な機能やサービスの誘導策を検討するとともに、地域生活拠点から都心地区を結ぶ公共交

通の維持・向上や、コミュニティバスなどの生活交通の維持にも取り組んでまいりたいと考えております。

今回のワークショップで地域の皆様のご意見を伺いながら、大沢野地域におけるまちづくりや拠点整備についてよりよいものをしていきたいと考えております。

- 廃止された文化会館が建て替えになるのか、複合施設の中に入るのかなど、今後の方針を示してほしい。

【文化会館の今後の方針について】

富山市公共施設等総合管理計画では、大沢野文化会館の機能について、「大沢野文化会館は、平成 28 年度末に廃止し、隣接の「大沢野生涯学習センター」や「大久保ふれあいセンター」を代替施設として利用する」と方向性を定めています。

大沢野文化会館については、これまで、施設の老朽化の状況、近隣の代替施設の有無、利用者の状況などを踏まえたうえで、施設の将来的なあり方について検討し、地域の皆さんや関係団体等のご意見なども伺いながら調整を行い、単独の文化会館としての廃止を決定したところです。

したがって、単独での建て替えを行うのではなく、複合施設に文化会館が持っていた機能をどのように取り入れていくのかについて検討していくこととなります。

その具体的な方針については、今回のワークショップをはじめとするコミュニケーション手段を用いて、住民の皆様からのご意見を参考として、市が策定します。

- なぜ、大沢野地域がリーディングプロジェクトなのかお聞きしたい。(ふりかえりシートより)
- 何を作るにも利用しやすさ、ニーズに合ったものを。使い勝手が悪ければ、いかに立派でも使わない。行政センター建替え、今の場所でなければならぬのか？(ふりかえりシートより)

【リーディングプロジェクトについて】

人口減少社会を迎え、公共施設を今まで通りに、すべてを維持していくことは非常に困難であり、公共施設の再編は、避けては通れません。

公共施設の再編は、「施設を廃止することである」ということではなく、必要な施設は、今後も維持・更新していきます。しかし、限られた財源の中で、施設を通じて提供されているサービスや機能を維持していくためには、施設の複合化・集約化ということも、有効な手法として検討していかなければなりません。

これまで、市では、公共施設の再編のために、複合施設を検討してきた事例がないことから、今後の再編を加速するうえでも、新たな複合化施設の整備のモデルとなる案件を早期に整備していくことが、必要だと考えています。

一方、大沢野行政サービスセンターの庁舎は、築45年を迎え、老朽化が進んでおり、施設の更新を考えていかなければなりません。

大沢野地域では、大沢野行政サービスセンターに隣接する大沢野文化会館の廃止を行ってきており、また、周辺には、複数の公共施設が近接しています。

このことから、モデルとなるべき案件を検討するには、大沢野行政サービスセンターを中心として考えていくことがふさわしいと考えました。

- 新規に建てる複合施設に機能を集約しても、更新費の削減につながらないのでと懸念しているため、施設の統合や廃止、耐震補強による長寿命化などを行った場合の将来更新費用の推計も出してほしい。

【将来更新費用について】

現在算出されている将来更新費用推計は、以下の方法で計算しました。

- 建築から耐用年数 1/2 の期間経過後に大規模改修、耐用年数到来後に建替えを行うと仮定して費用を計上しました。
- 大規模改修の必要は2年、建替えの費用は3年で均等に分割して計上しました。
- 平成26年度時点で既に大規模改修及び建替え時期を迎えているものについては、平成27年から5年間にわたり、分散して費用を計上しました。
- 更新単価は既に更新費用の試算に取り組んでいる地方公共団体の調査実績、設定単価等を基に設定していました。
- 病院は建築物のみを対象とし、医療機器類は、耐用年数が多様で、分類も複雑になるため対象外としました。

市では、今後、各施設の点検結果や老朽化の状況などの情報を一元管理し、施設のライフサイクルコスト（施設の建設から解体までに要する費用の総額）のシミュレーションなどを行うシステムを整備し、個別施設ごとに必要となる将来費用を算出しながら、公共施設をマネジメントしていくこととしています。施設の統合等を行った場合の将来費用を検討するには、今後どのような施設をどのように集約していくかといったことなど、不確定な要素が多くあります。

また、今後の公共施設等の整備にあたっては、民間事業者の資金とノウハウを積極的に活用していくこととしています。例えば、民間収益施設を併設し収

入を得ながら施設運営を行う等、これまでの行政の考え方にとらわれない、自由な発想による新たなサービス提供の形を探っていくこととしておりますので、施設に係る経費につきましても、全て市の財源で対応することにはならないと想定されることから、現段階では詳細な将来費用を算出することは難しいと考えています。

- 過去の行政側の方向、決定、方針が前提として説明されないのかを質問してよいかどうかで迷った。(ふりかえりシートより)

今回のワークショップで、公共施設の再編を考えるにあたっては、次の計画が関連深いと考えられます。

- ①富山市公共施設等総合管理計画
- ②富山市公共施設マネジメントアクションプラン
- ③富山市都市マスタープラン
- ④富山市立地適正化計画

①と②についてはグループごとに全文を1冊ずつ配置し、③と④については、前回のワークショップの資料6に、計画の考え方の一部を掲載しています。このほかにも、市には、総合計画などの主要な計画がありますので、お知りになりたい計画やその内容がございましたら、行政管理課の職員に個別にお尋ねください。